

令和六年度入学式 式辞

本日ここに、東京都立 小金井北高等学校 全日制課程 第四十五回入学式にあたり、ご多用中にも関わらず、ご来賓の皆様のご臨席を賜るとともに、保護者の皆様にもご列席いただき、このように盛大な入学式を挙行できますことは大きな喜びでございます。

本校教職員を代表し、心より御礼申し上げます。

保護者の皆様、本日はお子様のご入学、誠におめでとうございませう。ただいま、入学を許可いたしました二百三十七名の生徒のみなさんに対し、私どもの持てる力を最大限に発揮し、指導に当たることをお約束いたします。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございませう。教職員、在校生一同、皆さんの入学を心から歓迎いたします。

皆さんは今、小金井北高校での新しい学校生活に対し、様々に希望をいただき、胸をふくらませていることと思います。

本校は、昭和五十五年に開校し、今年度で四十五年目を迎える高校です。これまで、「創造」、「自律」、「努力」を教育目標に、次代の日本を支えるリーダーの育成を目指し、すべての教育活動を通じて、生徒の高い進路希望を実現するとともに、学校行事や部活動を通じて、豊かな人間性を育み、自他の文化を尊重出来るグローバル人材の育成等に取り組んできました。そうした本校の卒業生は、政治や経済、文化・芸術、教育など、社会の様々な分野の第一線でも活躍しています。また、東京都教育委員会からの進学指導推進校の指定も十四年目を迎え、国公立大学や難関私立大学への現役合格の実現など、年々その進学実績を積み重ねているところです。これは、生徒一人ひとりが高い目標を持ち、その実現に向けて努力を継続した結果です。

そのような先輩たちの背中を追いかけて、新たな一步を踏み出す皆さんに、本日は、「学ぶ」ということについて、話をしたいと思ひます。

皆さんは、これまで九年間にわたり、学校教育を受けて「学び」を経てきましたが、何を目標して、ここまで「学んで」きたのでしょうか。知らないことを知るため、であったり、いい学校に入ったり、保護者の方や先生たちに褒められるためであったり、様々な理由があったと思ひます。成績が良ければ、勉強しておいてよかった、と安心したり、成績が振るわないことを悩んだことがある人も多かったかもしれませう。

今改めて知っておいてほしいことは、なぜ私たちは何かを「学ぶ」必要があるのか、ということだ。歴史を変えるような発見や発明に至った「学び」は、ご存じのとおり、いい学校に入るための手段として「学んだ」結果ではありません。彼らは、何かに興味を持ち、自分なりに考えを巡らせたり、困っている人を放っておけなかつたり、という思いを募らせ、人々の暮らしを良くしたり、病気の方を治療したりしたいという一心で「学んだ」結果、大変な偉業を成し遂げたのです。興味も関心も異なれば、歩んだ道のりも一人ひとり異なります。ただ、スタート地点では何者でもないどこかの誰かが、何か気付き、そこにとことん

向き合って、やがて大きな何かを見つけたり、手に入れたりしたという点では共通していません。

今、私たちの暮らしぶりは昔より格段に改善され、快適になったはずですが。しかし、日々の生活の中には変わらず困ったことや悩ましいことがあふれ、海の向こうでは、今日こうしている間も戦禍におびえ、恐怖に震えている人たちがいます。人類は多くの人たちの叡智によって進歩を遂げたはずなのに、解決できない課題は未だに山積みです。

今の皆さんは、まだ何者にもなっていません。しかし、何者でもない皆さん一人ひとりが様々なことを「学ぶ」ことで、私たちの前に立ちふさがる壁が一つ取り除ける可能性がでてきます。歴史に名を残すような取組でなくても構いません。一人の小さな「学び」が結びついて数十年後に大きな何かにも変わることもあるかもしれません。大げさに聞こえるかもしれませんが、私たち一人ひとりには、人類をより良くするために「学ぶ」必要があるのです。目先のことに囚われたり、自分の利益のためだけに生きていったりすることをよしとする風潮が強まっていますが、自分の利益のためだけでなく、人類が受け継いできたバトンを次の世代に渡していけるように、ぜひとも皆さんには過去と未来をつなぐ、そして海の向こうと今いる場所とをつなぐためにも、ひたむきに「学び」に取り組んでほしいと願っています。本日入学された新入生の皆さんの三年間が、本校での「学び」をとおして、実り多き時間となることを願ってやみません。

結びに、本日、ご臨席を賜りました保護者の皆様に心よりお祝いを申し上げますとともに、今後とも、本校の教育活動に一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます、式辞といたします。

令和六年四月九日

東京都立小金井北高等学校長 石田健司